

甘木朝倉 介護保険事業者 協議会 会報

甘木朝倉介護保険事業者協議会 会報
Vol.13 平成16年4月1日発行 第5巻第1号(通巻第13号)

Vol.13

「ごあいさつ」

甘木朝倉介護保険事業者協議会
副会長 火野坂 徹



介護保険制度が発足して丸4年が経過しました。医療保険の報酬改定と介護保険の報酬改定では、今年度は社会保険診療報酬の改定がおこなわれ、そして来年度には、介護保険の本格的な制度改革が予定されています。この両方の保険制度改定に共通の条件は、現状の厳しい経済社会情勢を反映しているということです。今年度の医療診療報酬の改定では、±0ですが、実質ではマイナス改定となることは必須で、各医療機関は今以上のコスト削減を余儀なくされることと思います。また介護保険においてはもっと深刻で、2004年に4兆8千億円と予想される給付費が、2025年には20兆円にまで達するであろうと試算されています。このような中、介護制度改革本部で今検討されている最も重要な課題は、「どうしたら介護保険制度を維持させていくことができるか」となっています。そのためには、①介護保険料を2～3倍にするという大幅引き上げ、②保険料徴収年齢の20歳まで引き下げ、③障害者支援費制度の介護保険との統合、④要支援、要介護の給付見直し、⑤特

養のホテルコスト見直し、⑥在宅の利用料負担を改定し、2割から3割負担とする案、さらには、⑦老人医療保険と介護保険の一本化などが検討されています。この制度改革本部で今検討されていることが、来年度の改定ですぐ導入されるということはないでしょうが、将来、遠からず改定案として浮上してくるであろうことは、しっかりと認知しておくべきだと思います。

制度自体がどんなに変化しても、介護を必要とする高齢者が年々増加するという現実は、変わりません。介護保険制度を大切にするためにも、無駄な利用は避け、本当に必要な介護サービスを適切に提供する仕組みが必要になってくるかと思っています。

介護保険に携わるものにとって、事業者であれ個人であっても、これからもっとも厳しい時代が待ち構えています。けれども、高齢者に対し、常に尊厳と愛情を持つことを忘れず接していれば、必ず自らの労働に充実感が得られることと思います。みなさまの益々の御発展をお祈りいたします。

事業報告

第3回スタッフセミナー 「コミュニケーション技法について」



▲講師 小島 隆幸先生

去る、3月20日(金)午後6時30分より朝倉町の朝倉町公民館2階会議室において平成15年度第3回スタッフセミナーが開催されました。講師に熊本県の社会福祉法人 東翔会 高齢者総合ケアセンター たいめい苑の施設長補佐 小島隆幸先生をお招きし「コミュニケーション技法について」をテーマに講義していただきました。当日は、施設・在宅関係者総勢120名の皆様にご参加いただきました。時間を忘れるほどに皆様熱心に受講されており、楽しみながら講義の方が進行していきました。講義の中でまず初めにNHKで放送されてあるルーブル美術館のテーマ曲「永遠のモナリザ」・山下達郎の「ヒュー

マン」を聞き、それから当日は席を12グループに分けておりましたので、そのグループ内で自己紹介をして、「人間らしさ」とは何だろうか?をテーマに5分間のグループ討議が行われました。そこで小島先生は「自己紹介もコミュニケーションのひとつ」と言っておられ、自己紹介をすることによって、まずは自分を知っていただく、そして相手のことも知る、そのことが初対面の人に対しての礼儀であり最も重要なことであると話されました。各グループで「人間らしさ」について討議が出た内容を各グループのリーダーに発表して頂きました。「人間らしさ」とは簡単に思えても、実は奥の深い質問に対し、皆さんが出した討議内容は「思いやり・優しさ・感情・個性を出す・言葉のコミュニケーション・相手を思いやる。また、気持ちを理解する・その人に対しての人間の価値を知る」などいろんな答えが出てきておりました。その中で小島先生が一番強調されておられたのが、「その人に対しての人間としての価値を知る」ということでした。それは「生と死」その人の生き方や今まで生きてきたプロセス、また人の死を受け入れる事でその人に対し感情や共感を生み、生き方に対して尊敬をしていく。そしてまたその人が生きていくための援助も行っていく、と仰っていました。小島先生の話に皆様が共感を覚え、理解をしてまた熱心に耳を傾けておられました。そして「人間らしさ」とは喜怒哀楽、その喜怒哀楽を出す方もまたその喜怒哀楽を理解し共感するも



▲グループ討議の様子



▲司会 四ヶ所 美恵子氏



▲研修部長 組坂 敏和氏

のも「人間らしさ」であり、理解・共感というのは人間性において、基本中の基本であり最も重要視することであると話されました。私たちが日頃何気ない日常の会話やコミュニケーションをとっている上で、見逃しそうになっていた一つ一つの「やり取り」・「かかわり」・「関係」・「自己表現」

を再認識させられると共に、改めて会話やコミュニケーションの大切さ・重要さというのを講師の小島先生に教えられました。講演が終了して、惜しめない拍手がありました。この講演に対する皆さんの熱心な姿勢・取り組み、また講師をして頂いた小島先生への感謝の気持ちが拍手になって表れたことと実感いたしました。講師の小島先生にはお忙しい中にもかかわらず、大変貴重な時間を作って頂き大変感謝しております。

(記広報部 前田 修)

今年度介護支援専門員共催現任研修に参加して

香月病院ケアプランサービス 堀内 淳介

平成15年度、朝倉保健福祉環境事務所と甘木朝倉介護保険事業者協議会との共催で、介護支援専門員圏域別現任研修会を併せた研修が3回実施されました。

11月26日に開催された、「リスクマネジメントへの取り組みとその対策」をテーマとしたセミナーでは、「リスクマネジメントは本来のあるべき姿にたどり着くための現状のギャップを埋めるもの」といわれた言葉が印象的でした。簡単のようで難しい本来のあるべき姿を明確に捉え、そこから問題を導き出して、原因究明を行い改善策を講じていく、といった一連の過程の重要性を改めて感じさせていただきました。

2回目の12月11日に開催された(施設関係者は12月22日開催)、「居宅介護支援(居宅サービス計画の作成)」では、介護支援専門員がケアプランを作成するに当たって、特に重要なコミュニケーション(関係作り)技法や、援助とは？ ニーズとは？ などといった対人援助技術について学ばせて頂きました。また、ある面では、事務的な流れ作業のようにもなりかけていた、自分自身の介護支援専門員とし

ての職務内容に関して、自己反省できる機会を与えていただき、中身の濃い充実した研修でした。3回目は1月21日に「スーパービジョン」のテーマで開催されました。スーパービジョンの内容説明や午後からは事例報告といった形式で、スーパーバイザー(事例提供者)、スーパーバイザー(講師)、グループメンバー等の役割を決めて実際にスーパービジョンが行われました。その中で、アセスメント時の事実確認(介護支援専門員がプラスと誤ってしていることも、利用者にとってはマイナスかもしれないといったお互いの意識の違いを確認する作業)の難しさや大切さを再認識させていただきました。

最後に、今後も引き続きこのような共催での形式で研修を開催されるのであれば、各従事者の職種や役割が違う中で『共通したテーマの選考』が重要な課題だと感じました。

今年度介護支援専門員共催現任研修に参加して

朝倉苑居宅介護支援事業所 安丸 眞弓

平成15年度介護支援専門員圏域現任研修は甘木朝倉介護保険事業者協議会と共催で行われました。居宅介護支援演習は平成15年12月11日(木)小島隆幸先生を招いて甘木総合庁舎2階会議室で、スーパービジョンは平成16年1月21日ピーポート甘木にて梅田真嗣先生を招いて介護支援専門員の現任研修が行われました。二人の講師の先生の話の中で何が一番知ってもらいたい事なのか?介護支援専門員として対人援助技術について「援助とは?」「ニーズとは?」改めて考え、また「人間らしさとは?」グループごとに問われました。「思いやり」「優しさ」「感情」「相手の気持ちを思いやる」「言葉で伝えることができる」共感し、泣き、笑い、喜び、人は死を認識した時に存在の価値がわかり、生きていくことの喜びを感じる。人は苦境にある人を認識した時、共感的な感情を持つ。そして、その共感的感情によって援助者の必要としているものを満たそうという動きが起こる。これが援助である。援助者はクライアント(本人・家族)契約者との信頼関係を築きながら自己選択、自己決定を促し積み重ねる事。その人らしく生きてもらうために、サポートすることで利用者が、自分らしく生きる事が出来るように、主体性を(自分の意思を表現する)引出し自分で思考し、判断し、行動を起こし、発言による態度を示す事が出来るように図る。理論ではスムーズに理解できるのですが、実際実践ではやっているものの、一人一人の抱えている家族問題・家族の背景・それぞれの持つ性格等があって正直困惑します。情報提供しながら相手の情報収集の引出しが上手いけば問題ないですが、これでよいのだろうか?良かったのか?迷ったりもします。ピラミッド型のマズロー

の欲求の階層説の話の中では、相手を良く知り相手を認めることで徐々に信頼・安心感が生まれてくる。そこからよいコミュニケーションがとれていききっかけにつながると思いました。講義の中で、「そうだ、そうだ」と心の中で頷き、共感を得ました。梅田先生のスーパービジョンの講義の中では、対人援助理論を通じて話をしているかないと、一般向きの流れになっていく。援助者は、利用者がどこまでやれるのか、本人の出来ること、出来ない事の能力を把握する。相談を受け代弁する必要があるのか、手を出しすぎて代弁ばかりに予先が相談員に向けられる場合が無いとも限らない。先生の体験談を聞き私自身、相談があった場合、何でも自分がしなければ・・・という思いが先に立ち開いての能力等を考えず、話を聞き「ハイ、ハイ」といった調子になっていたのではないかと反省しています。今回の現任研修に参加して色々な場面での自分自身を振りかえることが出来ました。これからの自分自身の仕事の中で利用者・家族との面談に役立てて行きたいと思えます。御指導有難うございました。



訪問介護・訪問入浴介護部会研修会に参加して

夜須町指定訪問介護事業所
サービス提供責任者 砥綿 美喜

1月29日(木)午後6時30分より太刀洗病院の運動療法室において専門部会研修会が開催されました。各事業所のスタッフを含め42名の参加がありました。講師に太刀洗病院の理学療法士小淵義知氏を迎え「移乗介助と腰痛予防」をテーマに講義と実技を受けました。

まず腰痛が起こる原因についての説明があり、それを踏まえた上で腰痛体操を全員で実施しました。これは椅子を使用して行う体操で、自宅で毎日無理なく続けられると好評でした。次に日常生活上の注意として(座位)(立位)(仰臥位)(側臥位)の移乗動作について、どういう姿勢が一番無理の無い状態か又負担が軽減

居宅介護支援部会 研修会

「自己を知る」ストレス解消について

小石原村社会福祉協議会
介護支援専門員 和田 博

1月26日(月)午後6時30分より市町村会館で居宅介護支援部会を開催しました。今回の部会は第3班が受け持ちでしたので事前に一度集まり研修のテーマ等について協議を行いました。開催日が1月26日と月末でもあり利用票を持って利用者宅への訪問や、部会開催日前には介護支援専門員圏域別現任研修等も予定されており、部会員一人一人公私共に何かしらのストレスが溜まっている頃(?)ではないかという事で、今回は部会員のリフレッシュを目的にストレス解消についての研修会となりました。

研修会当日は、講師に朝倉記念病院の臨床心理士内田絵利子さんを講師にお迎えし、『「自己を知る」ストレス解消について』と言うテーマでお話していただきました。

ストレスとは、もともと物理学に由来する言葉で物質に対して外的な圧力が加えられた状態を示す言葉であったそうです。現在では、人が嫌悪的あるいは脅威的であると感じられる刺激や出来事(ストレッサー)と、それによって引き起こされる心身の変化(ストレス反応)とをまとめて表現する言葉として用いられているそうです。

ストレスと聞けば悪者としてのイメージがありますが、アメリカの心理学者がさまざまな刺激がなにもない(いわゆるストレスがなにもない)部屋で過ごす実験をしたところ、体温調節機能は低下し、暗示にかかりやすくなり、あげくの果てには幻覚・妄想まで起こってしまったそうです。つまり、心と体のバランスを保つためには適度なストレスが必要といえます。しかし必要以上のストレスが慢性的に維持すると、心身がそれに耐えられなくなって、精神的疾患や身体的疾患などさまざまな問

題が発生する危険性が高くなるそうです。このようなストレス反応には、自信喪失、思考力低下、無気力などの認知的反応。引きこもり、攻撃的行動などの行動的反応。自律神経系、内分泌系、免疫系、随意運動系の乱れなどの身体的反応があるそうです。

このような原因を引き起こすストレスに対する対処や工夫(コーピング)として、ストレスの原因となる情報を収集して問題の所在を明らかにし、問題そのものを解決する問題焦点型と、直面している問題に捕らわれないように、気晴らし(ショッピングやおしゃべり、趣味活動)をしたり、問題から一時的に非難する情動焦点型とがあり、両方の方法を選択できるようになることが大切だそうです。

最後にどこでも手軽にできるストレス解消法として呼吸法の紹介がありました。まず①姿勢を整える(椅子の背に軽くもたれ、膝は鈍角にし、両手は膝の上へのせ、首は軽くうなだれる)②静かに閉眼③吸っている息をすべて口から吐き出す④「1、2、3」で鼻から息を吸いながら、お腹を膨らませる⑤「4」でいったん止める⑥「5、6、7、8、9、10」で口から息を吐き出しながら、お腹をへこませる⑦ ④～⑥を三分間行う⑧消去動作(ジャンケン「グー」「パー」の繰り返し)、肘の屈伸、背伸びなど。ストレスを感じたら一度試してみたいかがですか。

『自分の吸った息を最後まで大切に吐ききるように心をこめて呼吸をしてみましょう。気持ちを落ち着けてゆつくりと長い息をする事で自分自身をリラックスさせ長生きにつながるそうです。』

できるかをわかりやすくポイントを抑えて説明されました。その後、時間を延長して利用者と一緒に出来る簡単な体操は無いかな、あるいは介護者に負担が少ない腰の上げ方はないかな等、質問があり小淵氏より指導を受けました。

今回の研修を終えて、日常の業務に生かすことで、ヘルパー一人一人の質の向上にもつながったのではないのでしょうか?又、今後も訪問介護・訪問入浴介護部会では、今回のような実務研修あるいは調理実習等も

計画し、事業所間の連携を深めながら進めていきたいと思えます。



訪問介護部会

部会長 岡部 由美子

—第13回部会内容—

- 「移乗介助と腰痛予防」について
講師 太刀洗病院 リハビリテーション科 小淵義知氏
1. 腰椎発生の原因について
 - ①姿勢不良によるもの
 - ②腰椎・骨盤のリズムによるもの
 2. 腰痛体操を全員で実施
 - ①腹筋・大殿筋の強化
 - ②背筋群・腸腰筋・大腿四頭筋・ハムストリングのストレッチ
 3. 姿勢について
 4. 日常生活上の注意について
 - ①座位
 - ②立位
 - ③臥位
 - ④運搬（介助時の医道動作）

—第14回部会内容—

1. 平成15年度活動反省について
 - ・パートの意識がうすくて、研修会の参加が少なかった。経営者・管理者においては研修会の参加について、時間外・代休で対応できてない事業所もある。
 - ・「移乗介助と腰痛予防」については、勉強になりとても参考になった。
 - ・調理実習はとても参考になった。
 - ・訪問入浴介護部会との専門的なつながりがなく事業所同士でもっと意見を寄せたらよかった。
 - ・専門部会での勉強会は他の部会にも必要性があれば声をかけ、利用者に反映できればよい。
 - ・ヘルパーの知恵袋を続けて欲しい。
2. 平成16年度活動計画について
 - ①4月12日
 - ・H16 年度部会計画
 - ・介護保険制度下のヘルパーの立場・役割について検討
 - ・ヘルパーの知恵袋
 - ②7月
 - ・調理実習
 - ・ヘルパーの知恵袋
 - ③11月
 - ・日常生活における基本動作と移乗介助の実技
 - ・ヘルパーの知恵袋
 - ④H17年2月
 - ・H16年度の反省
 - ・H17年度の活動計画
 - ・ヘルパーの知恵袋
3. 平成16年度専門部会会長はJA元気プラザの坂口美雪氏に了解を得る。
4. 平成16年度のスタッフセミナーは、専門部会より「痴呆の理解と接し方」を研修部に提案します。

第13回開催 H16.1.29 全12事業所中9事業所、42名参加
第14回開催 H16.2.10 全12事業所中10事業所、14名参加

訪問リハビリ部会

部会長 野口 秀康

—第13回部会内容—

1. 連絡事項
平成16年度事業計画と予算の件
今年度は6、9、12、3月第二火曜日実施予定
事例検討会を1回1事業所から1件予定
2. その他
リハビリ指示書の件
平成15年度のQ&Aについての検討

第13回開催 H16.3.9 全4事業所中2事業所、6名が参加

介護保健施設部会

部会長 熊谷 真由美

—第14回部会報告—

- 〈支援相談部門〉
1. 入所・退所事例紹介
ラ・パス
アスピア
 2. 意見交換
 - ①相談から入所までの流れと職員の関り
 - ②入所時の契約者・退所の話の進め方
 - ③判定会議の開催方法
 - ④短期入所中の薬の扱いについて
 - ⑤ヒヤリハット報告の取り扱い
 - ⑥苦情処理について
どの程度の事から苦情とみなすかの判断が難しい
 3. 次年度の活動について
支援相談部門の会合を年3回程度開催希望

—第15回部会報告—

- 〈事務長会〉
1. 平成16年度 部会長選出
部会長 サンビレッヂ朝日ヶ丘
 2. 平成16年度以降の部会運営等について
 - ①部会長の選出順
 - ②部会長任期
1年（原則）
 - ③部会の運営方法等
部会長に一任
 - ④部会長の職種
何れでも可

第14回開催 H16.1.16 6事業所中6事業所・6名参加
第15回開催 H16.2.6 6事業所中4事業所・5名参加

通所リハビリ部会

部会長 森 昌広

—第11回部会報告—

1. 利用状況
 - ・冬場に入り利用者数が減少
 - ・利用者が重度となりショートステイの利用が多くなってきた
2. ケアプランについて
 - ・居宅支援事業所との関係
サービス計画書が届かない。カンファレンスが充分にできていない
 - ・評価について
期間、記入方法
 - ・作成者は、各職員にふりわけているところが多い
3. 記録等について、今の記入方法でよいか不安がある
4. 来年度部会長
アスピア 近藤 洋子氏
5. 来年度活動計画
5月・8月・11月・2月（合同部会 11月予定）

第11回開催 H16.3.10 8施設中 7施設、11名参加

訪問看護部会

部会長 空閑 優子

—第21回部会報告—

- 11月に厚生労働省老健局総務課から家庭内における高齢者虐待に関する調査依頼書が関係機関に届きました。この調査は、家庭内における高齢者虐待について、その発生原因、地域関係機関の援助・介入の状況を把握することにより、今後の高齢者虐待防止施策検討のための基礎的資料を得ることを目的としており、介護保険制度施行後初の全国調査として重要な意義を有する調査研究との事です。調査依頼書が届いた訪問看護事業所は調査票に記載を行い提出期限に郵送済みです。

第21回開催 H15.12.17 全3事業所、3名が参加

グループホーム部会

部会長 四ヶ所 美恵子

—第3回部会報告—

1. 拡大運営会議の連絡事項
 - ・11月1日(土)～11月2日(日)「介護フェスタ“03” in 夜須」の案内
 - ・第2回スタッフセミナー「リスクマネジメントについて」
2. 各施設でのケアプラン、記録についての意見
 - ・記録時間を要しているため重複した記録は検討していく。
 - ・各施設により記録が違っているが独自のものでも良いのでは。
 - ・入所時に家族の希望や問題点を上げ、一つ一つを解決できるようにプランを立てる。
 - ・評価は月1回スタッフ全員参加でケアカンファレンスを行っている。
3. その他
 - ・行事として月1～2回日帰り外出を予定している。
 - ・毎日の日課、体操、散歩、レクを取り入れ足が弱らないようにしている。
 - ・問題行動により早く気がつくように、又迅速に対応できるように心がけている。利用者の中より気がつかれることもある。
 - ・消灯時間、朝食時間は決めてなく、利用者に合わせて対応している。
 - ・夜間不眠は出来るだけ昼間眠らないように対応し、眠剤などの薬は服用しないようにしている。
 - ・徘徊の方には、そばについて会話をしながら落ち着くまで一緒にいる。
 - ・飲水量、便などのチェックも行っている。

—第4回部会報告—

1. 拡大運営会議の連絡事項
 - ・第2回スタッフセミナー 11月26日
 - ・第3回スタッフセミナーについて
2. 香月病院ゆうゆう見学
3. 看取りについて
 - ・さくら・今後終末期ケアを行っていく予定である。入所時に終末期ケアについて家族と話し合い同意を得るようにしている。
 - ・弘医荘・終末期ケアはスタッフの負担が大きく、現在は病院へ転院となる。
 - ・さくら荘・病変があればかかりつけ病院へ転院
 - ・ゆうゆう・以前、入所者の希望により終末期まで介護にあたったが、病棟に。最終は入院となり入所者もお見舞いに行ったりされた。
 - ・入所者に病変があれば、他の入所者の精神面、理解度などにより状況が変わるため対応が不安である。
 - ・入所者が家族の一人と捉えていけば看取りも家庭的な雰囲気になるのでは、又、終末となれば家族、親戚等の出入りが頻回となり入所者がどう捉えていくのか不安である。
 - ・今後、終末期ケアもそれぞれの施設で対応していかなければならない問題かもしれない。
4. その他
 - ・スタッフが交代制であるため申し送りが行き届かないことがある。
 - ・日勤が数名いて申し送りをみんなで行っている。
 - ・又、記録にサインを必ずするようにしている。
 - ・施設により休憩室もなく休憩がとりにくい。
 - ・入所者さんとのかわり
 - a. 散歩などを行い共通の話題がもてるようにスタッフが言葉かけをしてお互いの仲間作りをしている。
 - b. 日課、ラジオ体操、散歩などまずスタッフより声掛けをしていく。入所者の方より今日は〇〇したいと希望が言えるようになる。
 - c. 散歩は手がかかる人は1対1で自立している人は介助を必要としている人に手助けをすることにより仲間作りが出来ていく。

d. 介護度がそれぞれ違い痴呆もあるためトラブルが起こることもある。

—第5回部会報告—

1. 次年度部会長選出
太刀洗病院 弘医荘 池田のぶ子さん
2. 次年度活動計画
3ヶ月に1回 年4回 第2水曜日予定
3. 意見交換会
 - ・グループホーム内で嘔吐下痢症が発生し感染が広がった
 - ・ホーム内、手洗い、うがいの徹底を行い院内感染の再認識をした。又、抵抗力をつける食事、お茶などに含まれるカテキン(生姜、レモンなど)を加えた。感染のため施設外に出ることが少なく体重増加も見られた。
 - ・空床部屋を一泊などの体験入所に利用している。
 - ・夫婦同伴での入所時の対応
 - ・入所前の面談が必要であり情報を取っておく。
 - ・徘徊がひどく暴言・全裸になる入所者の対応。
 - ・その他
 - 管内のグループホームへの入会の声かけを行う。

第3回開催 H15.10.8 全5事業所、7名が参加
第4回開催 H15.12.10 全5事業所中4事業所、10名が参加
第5回開催 H16.2.18 全5事業所中4事業所、8名が参加

介護療養型部会

部会長 宮崎 朝子

—第27回部会報告—

1. 病床利用状況報告
2. 拡大運営会議のないよう報告書
3. 症例カンファレンスと問題点の検討
4. 介護病室の記録及びケアプラン実施の記録について。

—第28回部会報告—

1. 病床利用状況報告
2. 拡大運営会議のないよう報告書
3. 症例カンファレンスと問題点の検討
4. 痴呆の対応について
 - ・痴呆の方の投薬及び対応の仕方
 - ・身体拘束について
5. レクリエーションについて
 - ・お誕生日会を毎月1回行なっている
 - ・天気の良い日に郊外散歩を行なっている。
 - ・その他(ゲートボール、ボール投げ、ボーリング、カラオケ、買物レクなど)

—第29回部会報告—

1. 病床利用状況報告
2. 拡大運営会議のないよう報告書
3. 症例カンファレンスと問題点の検討
4. ベットコントロールについて

通所介護部会

部会長 阿波 範良

—第15回部会内容—

1. 平成15年度事業報告
2. 平成16年度事業計画予算作成
 - ・定例会 年4回(5・8・12・2月) 第2金曜日
 - ・通所リハビリ・通所介護合同研修会(11月)
3. 平成16年度部会長・副会長選任
 - ・部会長 石橋 彰二(甘木愛光園)
 - ・副会長(書記) 芳野 健二(甘木愛光園)
4. 意見交換
 - ・積雪時のデイサービス利用対応について
 - ・医療保険と介護保険との絡み

第15回開催 H16.2.13 12事業所中12事業所・24名参加

「介護福祉施設の現場から」

特別養護老人ホーム 朝老園 介護支援専門員 山口 文敏

介護保険制度が始まって5年目を迎えようとしています。その間、介護支援専門員としてアセスメント、施設サービス計画の原案作成、サービス担当者会議の開催、計画書の本人又は家族へ説明及び同意、モニタリングなどと業務に追われている毎日です。

そんな中、先日利用者が転倒し頭部を切傷する事故が起きました。サービス計画書を確認したところ「以前は歩行され転倒も頻回にあったが、現在は下肢筋力低下で歩行は出来なくなれ転倒事故はなくなった…」と転倒を否定する計画内容でした。その半年前の計画書は「転倒頻回で打撲、内出血絶えず家族との相談の結果、緊急やむを得ず…」所謂、身体拘束の説明をしていました。当然どちらの計画書も家族説明及び同意を得ていましたが、状態変化により転倒がないと明記していたにもかかわらず、転倒の原因が何であれ事故が起きてしまいました。本人はもとより家族に対しても大変申し訳ないながら早速謝罪と状況報告の電話をしましたが逆に迷惑かけたと恐縮される次第でありました。

何故、利用者の状態変化をつかめなかったか、事故を予測できなかったか、そして計画書に反映できなかった

か、介護支援専門員として反省をする機会でもありました。一方、リスクマネジメントではよく言われる良い人間関係づくりという部分において、サービス計画書の原案を作成し家族へ説明及び同意を得ていたことと、併せて書面による身体拘束の説明など一連の作業をしていたことも家族の理解が得られた一因と思います。しかし、骨折入院で訴訟問題に発展する事故もあることを忘れてないで危機管理を行うことは言うまでもありません。

冒頭にも申しましたが、この4年間は介護支援専門員として書類作成など日々机上の業務に追われる毎日でしたが何とか整備できたこと、そして無駄でなかったことを自負しています。しかし、書類ばかりに視線が向き利用者と接する時間が減ったことも事実です。

来年は介護保険の見直しが行われます。制度がどのように変わろうとも、私たちが働く場は人と人のふれあいの場であります。第三者からの評価も大切ですが、私たちの最終目標は利用者や家族に満足して頂いたかどうかです。まずは「笑顔」を忘れず「丁寧な言葉」で接していきたいと思っています。そのことが人を快い気分させてくれるはずです。『あなたに任せます』…と。

○家事編

- ・保存ビンの消毒は、洗った後にレンジにかけることにより、沸騰と同様の効果が出来て簡単です。
- ・魚のうろこを取る時は、ペットボトルのふたで代用できます。
- ・固まった塩をラップにかけず30秒程度レンジにかければ、さらさらの状態になります。

○身体編

寝たきりで腰をあげが困難な人の場合、膝を立てた状態で膝をつま先の方に引くことにより、腰がスムーズに上がり介助が楽に出来ます。(オムツ交換やズボンの上げ下ろしなどに)



編集後記

桜の時期になりました。たぶん会報が発行されるころには葉桜になっていると思いますが、最近桜の花が咲くのが早くなったなーと思う今日この頃です。新年度に入り皆さんも新しい気持ちで勤務されていると思います。まもなく総会があり、新しい役員が決まり新しい体制で今年度が始まります。

会報も新しい企画を考えていきますので皆さんからの要望や感想を広報部までお寄せください。

(秀)

事務局

甘木朝倉介護保険事業者協議会 事務局
〒838-0815 福岡県朝倉郡三輪町大字野町2226-3
介護老人福祉施設 朝倉苑内
TEL (0946)22-2881 FAX (0946)24-8322

編集 / 発行所

甘木朝倉介護保険事業者協議会 広報部
〒838-0823 福岡県朝倉郡三輪町大字山隈501番地
介護老人保健施設 城山荘内
TEL (0946)22-1051 FAX (0946)22-1318
印刷 / 井上総合印刷株式会社